



# 目 次

緒 論 .....	9
-----------	---

## 第1編 鋳鉄の熔接

第1章 鋳鉄の熔解法 .....	12
1.1 熔銑炉熔解法 .....	12
1.1.1 キュポラの構造および分類 .....	12
1.1.2 キュポラの主要寸法 .....	13
(1) 熔解能力 .....	14
(2) 羽口比 .....	14
(3) 炉の有効高さ .....	14
(4) 出湯口と出滓口 .....	15
(5) 前 炉 .....	15
(6) 送風装置 .....	15
1.1.3 キュポラの操業法 .....	16
(1) 炉 修 .....	16
(2) 地金の配合 .....	17
(3) 地金の装入と送風 .....	22
(4) 熔銑炉内の燃焼状況 .....	22
(5) 操業における注意 .....	23
1.1.4 キュポラ熔湯の判定法 .....	24
(1) 出湯温度の測定 .....	24
(2) チル試験 .....	24
(3) 湯面模様による判定 .....	26
1.2 電弧炉による鋳鉄熔解法 .....	27
1.2.1 炉 の 構 造 .....	28
(1) 炉体および炉蓋 .....	28
(2) 炉 床 .....	29
(3) 電 極 .....	29
1.2.2 電弧炉操業法 .....	30
(1) 塩基性電弧炉操業法 .....	30

## 目 次

(2) 酸性電弧炉操業法	31
1.2.3 電弧炉熔湯の判定法	31
(1) 出湯温度の測定	31
(2) チル試験	36
(3) 湯面模様	36
1.3 高周波電気炉による鉄鉱熔解法	37
1.3.1 炉の構造および電気設備	37
1.3.2 高周波炉操業法	38
1.3.3 高周波炉熔湯の判定法	39
1.4 鉄鉱に現れる各種熔解法の差異	40
1.4.1 破面	40
1.4.2 組織	41
1.4.3 不純物	41
1.4.4 熔接に際して注意すべき相違点	41
第2章 鉄鉱の一般的性質	43
2.1 鉄鉱の組織とその性質	43
2.1.1 化学組成と工業規格	43
2.1.2 鉄鉱の組織図	47
2.1.3 黒鉛の形状	48
2.1.4 鉄鉱の物理的性質	49
(1) 鉄鉱の物理的常数	49
(2) 鉄鉱の収縮	50
2.1.5 鉄鉱の機械的性質	51
(1) 抗張力	51
(2) 硬度	52
(3) 衝撃値	53
(4) 耐磨耗性	53
(5) 鉄鉱の高温における強さ	54
(6) 鉄鉱の機械的性質に及ぼす肉厚の影響	55
(7) 鉄鉱の工作性	56
2.2 特殊鉄鉱とその熔接	57
2.2.1 特殊合金鉄鉱	57

## 目 次

(1) ニッケル鋳鉄.....	57
(2) クロム鋳鉄.....	58
(3) ニッケルクロム鋳鉄.....	59
(4) モリブデン鋳鉄.....	60
<b>2.2.2 可 鍛 鋳 鉄.....</b>	<b>60</b>
(1) 白心可鍛鋳鉄.....	60
(2) 黒心可鍛鋳鉄.....	61
<b>2.2.3 球状黒鉛鋳鉄.....</b>	<b>62</b>
<b>2.3 鋳鉄の熔接部の性質 .....</b>	<b>63</b>
<b>2.3.1 熔接部の組織と機械的性質.....</b>	<b>63</b>
<b>2.3.2 熔接部の緊密性.....</b>	<b>68</b>
<b>2.3.3 熔接部の耐蝕性.....</b>	<b>68</b>
<b>2.4 鋳鉄の熔接性 .....</b>	<b>70</b>
<b>第3章 鋳鉄電弧熔接法 .....</b>	<b>72</b>
<b>3.1 各種電弧熔接法 .....</b>	<b>72</b>
<b>3.1.1 鋳鉄電弧熔接法の分類.....</b>	<b>72</b>
(1) 電極による分類.....	72
(2) 熔着金属による分類.....	73
(3) 母材に加える熱的操作の有無による分類.....	74
<b>3.1.2 各種鋳鉄電弧熔接用熔接棒.....</b>	<b>75</b>
(1) 軟鋼熔接棒.....	75
(2) 鋳鉄熔接棒.....	77
(3) 非鉄合金熔接棒.....	78
<b>3.2 鋳鉄電弧熔接法各論 .....</b>	<b>81</b>
<b>3.2.1 冷間熔接法.....</b>	<b>81</b>
(1) 一般的な冷間電弧熔接作業の基準.....	82
(2) 熔接準備.....	83
(3) 熔着法.....	84
(4) 熔接棒の選択と運棒法.....	87
(5) ピーニング.....	88
<b>3.2.2 冷間熔接の1方法としてのスタッド熔接法.....</b>	<b>89</b>
(1) スタッドの役目.....	89

## 目 次

(2) スタッド熔接法における準備工作.....	89
(3) 熔接の施行.....	91
3.2.3 冷間熔接法の1方法としてのグループ熔接法.....	92
3.2.4 冷間熔接における熔接後の処置.....	93
3.2.5 热間熔接法.....	93
(1) 低温予熱による電弧熔接法.....	94
(2) 低温予熱の方法.....	95
(3) 高温予熱による電弧熔接法.....	96
a) 高温加熱の方法.....	96
b) 熔接方法.....	97
c) 熔着錆鉄徐冷のための操作.....	97
d) 薄肉錆物および小容器を熔接する操作.....	98
e) 熔滓の除去.....	98
3.2.6 錆鉄電弧熔接法の実例.....	98
(1) 巣, 砂嚙, ふかれ, 割れ等比較的小さな部分の熔接法.....	98
(2) 大型錆物が機械の1部分として作動中に 割れ, 切損等を生じた際の熔接法.....	100
4章 錆鉄ガス熔接法 .....	108
4.1 錆鉄ガス熔接法の熔接棒各論 .....	108
4.1.1 錆鉄製熔接棒 .....	108
4.1.2 錆鉄ガス熔接棒の具備すべき条件 .....	108
4.1.3 熔接棒の化学組成 .....	109
4.1.4 熔接棒の製作ならびに形状 .....	112
4.2 予熱および後熱 .....	113
4.2.1 錆鉄の加熱および冷却による状態の変化 .....	114
4.2.2 錆鉄の加熱に際しての注意 .....	115
4.2.3 予熱方法および予熱温度 .....	118
4.2.4 熔接後の焼鈍 .....	120
4.3 錆鉄ガス熔接操作 .....	124
4.3.1 熔接部の準備加工 .....	124
4.3.2 熔着法 .....	125
(1) 吹管火口の選択とその取扱い .....	125

## 目 次

(2) 運棒ならびに熔接器の操作.....	126
4.3.3 熔 剂.....	129
(1) 炭酸ソーダ.....	130
(2) 硼 砂.....	130
(3) Al 粉 末.....	130
4.4 鋳鉄ガス熔接法の実例 .....	131
4.4.1 鋳巣, 砂嗜み, ふかれ, くされ等の欠陥 が比較的大きくかつ同一鋳物に数個存在する場合の熔接法.....	131
4.4.2 鋳物の木型不良, 造型不良, 図面訂正等により, 新しく鋳物に1部分を附加する場合の熔接法.....	134
4.4.3 機械加工後にあるいは作動中に亀裂が発生した場合の熔接法.....	135
第5章 鋳鉄低温熔接法 .....	139
5.1 青銅熔接法 .....	139
5.1.1 青銅熔接の特長.....	139
5.1.2 予 熱.....	139
5.1.3 開 先.....	140
5.1.4 熔 剂.....	140
5.1.5 熔 接 棒.....	140
5.1.6 熔 接 操 作.....	141
5.1.7 鑄接部の機械的性質.....	141
5.2 低 温 熔 接 法 .....	142
5.2.1 熔 接 棒.....	143
5.2.2 接 手 の 形 状.....	143
5.2.3 予 熱.....	144
5.2.4 熔 着 法.....	144
5.2.5 応 力 除 去.....	145
第6章 鋳鉄鋳物の熔接基準 .....	146
<h2>第2編 鋳鋼の熔接法</h2>	
第1章 鋳鋼の種類と一般的な性質 .....	149
1.1 鋳鋼の種類と機械的性質 .....	149

目 次

1.2 鋳鋼品に現れる欠陥 .....	151
1.2.1 巣および引き巣 .....	151
1.2.2 高温亀裂 .....	152
1.3 鋳鋼の熔接性 .....	153
第2章 鋳鋼の電弧熔接法 .....	154
2.1 予熱 .....	154
2.2 熔接棒 .....	156
2.3 熔接操作 .....	158
2.4 熔接後の熱処理 .....	162
第3章 鋳鋼品の組立熔接 .....	167
3.1 鋳鋼品の組立熔接の1例 .....	168
参考文献 .....	170

